

ふるさとあおもい景観賞

青森県県土整備部都市計画課

「ふるさとあおもり景観賞」

ふるさとあおもり景観賞は、県内の良好な景観づくりに貢献していると認められるまちなみ景観や屋外広告物、まちづくり活動等を表彰することにより、ふるさと青森の個性を生かした魅力ある景観形成に対する県民意識を高め、本県の美しい景観づくりに寄与することを目的として実施している事業です。

第 1 回	募集期間：平成 20 年 3 月 10 日～平成 20 年 4 月 30 日
第 2 回	募集期間：平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日
第 3 回	募集期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日
第 4 回	募集期間：平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
第 5 回	募集期間：平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
第 6 回	募集期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
第 7 回	募集期間：平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日
第 8 回	募集期間：平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日
第 9 回	募集期間：平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日
第 10 回	募集期間：平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日
第 11 回	募集期間：平成 30 年 6 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日
第 12 回	募集期間：令和 元 年 6 月 1 日～令和 2 年 1 月 31 日
第 13 回	募集期間：令和 2 年 6 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日

○募集部門

第 1、2 回	第 3 回	第 4～6 回	第 7 回～
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ景観部門 ・屋外広告物部門 ・まちづくり活動部門 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ・地域景観部門 ・屋外広告物部門 ・まちづくり活動部門 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ・地域景観部門 ・ふるさと景観づくり部門 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ部門 ・土木施設部門 ・公共建築物部門 ・民間建築物部門 ・屋外広告物部門 ・地域づくり活動部門

第1回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成20年3月10日～平成20年4月30日

「まちなみ景観部門」	応募	9件	受賞	1件
「屋外広告物部門」	応募	11件	受賞	1件
「まちづくり活動部門」	応募	6件	受賞	2件
				(審査員特別賞 1件)

【まちなみ景観部門】

「是川団地」 (八戸市)

受賞者 (株)八洲建築設計事務所

<受賞理由>

今回の受賞景観は、公営住宅が創り出す新しい街なみです。

この住宅団地は設計者選定のプロポーザルを実施し、結果的に質の高い景観と機能を併せ持つ建て替えに成功しています。しかも、堀やフェンス等で周囲の地域から離す形で閉じられた景観を形成するのではなく、開かれた景観として、建築形態及び外構デザインが検討されており、団地更新の今後の可能性を示唆するものと言えます。



【屋外広告物部門】

「屋外広告板透明（ソフテック看板）」 （八戸市）

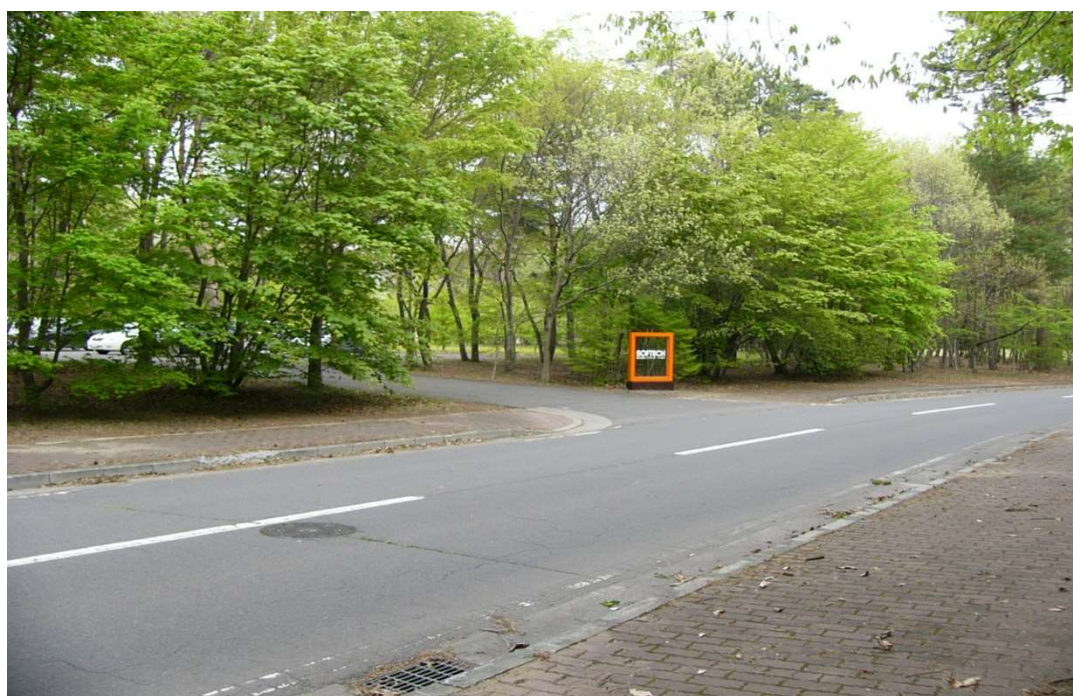
受賞者 (株)エーアンドエム

所有者 (株)ソフテック

<受賞理由>

デザインのセンスが秀逸な応募作です。

この広告物は、その大きさといい、文字の使い方といい、適度の大きさで表現されています。そして何よりも審査員に好印象を与えたのは、背景の緑をそのまま広告物の背景に取り込むことを可能にする透明な材質です。板を通して見えるみずみずしい緑が見事に広告物の背景となって、文字そのものもとても観やすいものとなっています。また、この控えめな広告物の背景に緑を伴って静かにたたずんでいる建築物とも調和しており、屋外広告物の一つのモデルと言える作品です。



【まちづくり活動部門】

「横浜町の菜の花を守り育てる活動」 （横浜町）

受賞者 菜の花トラスト in 横浜町

<受賞理由>

横浜町の活動は、すでに様々なところで評価を受けていますが、改めてその活動の質の高さとかけられたエネルギーの量に頭が下がる思いです。単に菜の花の黄色い色を地域に増やしていくという単純な活動ではなく、子供からお年寄りまで多様な人々を巻き込みつつ、多面的に実施している景観づくりの活動は、表彰に値します。



【まちづくり活動部門】

「下北駅周辺整備促進協議会」

(むつ市)

受賞者

下北駅周辺整備促進協議会

推薦者

工藤知彦

＜受賞理由＞

下北の協議会も高い評価を与えるべき継続的な活動を行っています。自主的参加によって成り立っている市民活動がこのような形で長い年月をかけて続けられていることに敬意を表したいと思います。その活動により、徐々に地域景観が豊かになっていくとともに、そのような活動をしている人々の姿こそが、優れた地域景観の一要素になっていることを自負して、今後も意欲的な実践を継続していただきたい。



【審査員特別賞】

「柳田保育園の送迎バス」 (深浦町)

受賞者 前田輝美

<受賞理由>

保育園の送迎バスのデザインも一つの屋外広告物であるということを、私たち審査員に伝えてくれた応募者の眼差しに賞を与えたいと思います。むしろ街並み景観であると定義してもいいかもしれない。動く景観、そして例え瞬間的にでも観るものにインパクトを与える可能性のある景観。その存在を、この応募は私たちに思い出させてくれました。



第2回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成21年4月1日～平成21年8月31日

「まちなみ景観部門」 応募3件 受賞0件

「屋外広告物部門」 応募6件 受賞0件

「まちづくり活動部門」 応募3件 受賞1件

(審査員特別賞 2件)

【まちづくり活動部門】

「官庁街通りのサクラを守る会」 (十和田市)

受賞者 官庁街通りのサクラを守る会
推薦者 大柳泰光

＜受賞理由＞

昨年の4月に現代美術館がオープンした十和田市の官庁街通りは、何と言っても桜並木の景観の素晴らしさに引き込まれてしまいます。「図」としての美術館の魅力を「地」として支える桜並木は、気がつくとも美術館を「地」に感じさせるくらい、「図」としての圧倒的な力を持った景観資源であると言えます。会員数20名ほどのグループが、木の治療をして桜を回復させるための活動を続けながら、そのような魅力的な都市景観を側面から支えているという事実に感動を覚えます。



【審査員特別賞】

「ガスタンク」

(八戸市)

受賞者 八戸ガス(株)

<受賞理由>

普通であれば、殺風景で無機的な色の世界に陥りそうなガスタンクに、八戸の空と海を同時にイメージさせる絵を描いて、ややもすれば圧迫感を与えがちな巨大構造物の景観を和らげているところを評価したいと思います。やり方を間違えればそれ自体が圧迫感を与えかねない危険性もありますが、上手にデザインされており、他の同じような取り組みにもよい刺激を与えてくれるものです。



【審査員特別賞】

「NPO法人つがる夢庭志仙会」 (つがる市)

受賞者 NPO法人 つがる夢庭志仙会

＜受賞理由＞

このグループは、これまでも農村部の自然環境整備や環境教育の取り組みなどを継続して実践されてきており、心から敬意を表します。地域の方々を巻き込んで、住民自らが景観を育てながら創り出していくという今回の活動も、高い評価を与えるべきものであり、今後の活動の継続を期待します。



第3回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成22年4月1日～平成23年1月31日

「まちなみ景観部門」	応募5件	受賞1件
「屋外広告物部門」	応募0件	受賞0件
「まちづくり活動部門」	応募2件	受賞1件

【まちなみ・地域景観部門】

「こみせ通りを彩るねぶたとねぶた灯籠」 （黒石市）

受賞者 （社）黒石青年会議所

<受賞理由>

津軽の夏は、ねぶた・ねぶたの鮮やかな光が夜を彩ります。今回の受賞対象となったねぶた灯籠は、その光とはちょっと異なる柔らかな輝きを放つものです。何年にもわたって、黒石市内の児童たちが自分たちの夢を託し続けてきたねぶた灯籠。それは、黒石のこみせ通りの風物詩ともいべき新しい景観になっています。古くからまもり育てられてきた優れた風景と子どもたちの想いがシンクロしたこの景観こそ、これからも後世に残していきたい青森ならではの景観と評価したいと思います。



【まちづくり活動部門】

「青森県立名久井農業高等学校」 （南部町）

受賞者 青森県立名久井農業高等学校

<受賞理由>

農業高校の生徒たちならではの植物を育てる実践が、単に学校内の授業にとどまることなく、地域に広がっていくプロセスを高く評価したいと思います。ただフラワーポットを設置するのではなく上手な育て方を地域の方々に高校生たちが伝え、そして地域でそれを暖かく育てていく。数年に及ぶその繰り返しは、もはや地域にとってあたりまえの景観になりつつあります。日常景観を豊かにする生徒たちの活動と指導されている先生方に心から敬意を表します。



第4回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成23年6月1日～平成24年3月31日

「まちなみ・地域景観部門」	応募4件	受賞1件
「ふるさと景観づくり部門」	応募2件	受賞0件

【まちなみ部門】

「八戸市庁前広場と周辺地」

(八戸市)

受賞者

八戸市

推薦者

瀬川征吉

＜受賞理由＞

八戸市庁前広場は、10年以上の長い時間をかけて少しずつ丁寧に整備されてきました。城跡でもあるこの広場は、市の中心部にありながら、ケヤキ、プラタナスなどの古木が茂る、緑豊かで歴史ある空間です。

登下校で行き交う中学生や高校生、ダンスの練習に励む若者が作り出す日常。三社大祭、えんぶりの賑わい。そしてアート活動が生み出す新たな一面。市民が中心となって織りなすこれら情景は、広大な空間に様々な表情を与えています。この広場は、単なる「空間」ではなく、市民の息づかいが感じられる「場所」となっていると言えるでしょう。

「路地の文化」と言われる日本のまちなみの中には、このような広場は多くはありません。この数少ない場所が、今後も市民のよりどころとして、さらに発展していくことを期待し、本賞を授与します。



第5回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成24年4月1日～平成25年3月31日

「まちなみ・地域景観部門」	応募5件	受賞1件
「ふるさと景観づくり部門」	応募3件	受賞1件

【まちなみ・地域景観部門】

「新田川沿い八戸酒造の景観」

(八戸市)

受賞者 八戸酒造(株)

推薦者 瀬川征吉

＜受賞理由＞

川に浮かぶ船、白壁の美しい蔵、建物越しに望む十王院の趣きのある屋根…本受賞作品は、館鼻地区新井田川沿いの美しい水辺の佇まいです。この風景の重要な要素になっているのは、八戸酒造の白壁土蔵の貯蔵蔵ですが、特筆すべき点は水辺から見えている部分は建物の裏手であるということです。

八戸酒造表側の建物は既に他からも多く表彰されていますが、所有者は受賞後も努力を続け、裏手の古蔵を自力で改装し、また東日本大震災による津波の被害からも守ってきています。こうした所有者の継続的な努力と、変わらない風景を魅力的に保持し後世に繋げようとする意気込みに、本賞を授与したいと思います。



【ふるさと景観づくり部門】

「新郷遊魚会」 （新郷村）

受賞者 新郷遊魚会
推薦者 鷹嘴昌也

＜受賞理由＞

受賞団体、新郷遊魚会は、五戸川を活動場所とし、つり大会を催すなど親睦を図る活動と併せて、川や水路の草刈・清掃活動や岩魚等の稚魚の放流を行い五戸川の環境維持・景観形成を行なっています。

今回の表彰にあたり特に注目した点は、活動にあたって地域の保育園や中学校の授業を巻き込むことで、活動を地域に広げている点です。これにより、次世代を担う子どもたちは、反復継続的に地域の景観に親しみ、学ぶことができるでしょう。本受賞団体も他から多く表彰を受けている団体ながら、受賞後も積極的な実践をつづけており、この継続的な努力に本賞を授与したいと思います。



第6回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成25年4月1日～平成26年3月31日

「まちなみ・地域景観部門」	応募2件	受賞0件
「ふるさと景観づくり部門」	応募1件	受賞1件

ふるさと景観づくり部門

「特定非営利活動法人つがる夢庭志仙会」 （つがる市）

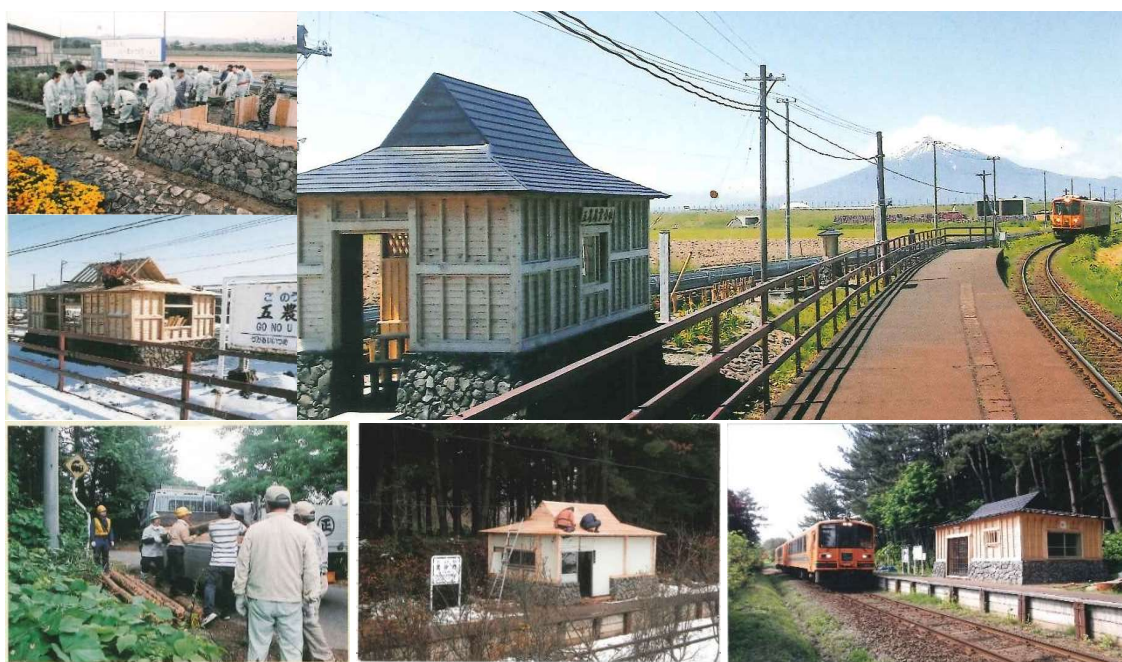
受賞者 特定非営利活動法人つがる夢庭志仙会
青森県立五所川原農林高等学校
森林ボランティア青森
津軽鉄道サポーターズクラブ
津軽鉄道(株)

<受賞理由>

つがる夢庭志仙会は、防雪林の間伐材を利用し、津軽鉄道の毘沙門駅の駅舎や五農高前駅に隣接する東屋を建設したり、「津軽鉄道林 夫婦箸」を制作したりするなど、木材の有効活用に努めています。また、空間としても岩木山に面した素晴らしいロケーションをつくりあげています。

地域住民や協力団体と連携し、地域の資源を活かした模範的な活動を長年継承しながら行っており、景観づくり部門としてふさわしい活動であるといえるでしょう。

このような活動によりつくり出された空間がこれからも市民のよりどころとして、さらに発展していくことを期待し、関係団体である「青森県立五所川原農林高等学校」「森林ボランティア青森」「津軽鉄道サポーターズクラブ」「津軽鉄道株式会社」の活動を評し、本賞を授与します。



第7回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成26年8月1日～平成27年1月31日

「まちなみ部門」	応募20件	受賞2件
「土木施設部門」	応募11件	受賞1件
「公共建築物部門」	応募6件	受賞1件
「民間建築物部門」	応募3件	受賞1件
「屋外広告物部門」	応募3件	受賞0件
「地域づくり部門」	応募10件	受賞2件
	(審査員特別賞 5件)	

【まちなみ部門】

「青森ベイエリア」 （青森市）

受賞者 ころろ、あったか。あおもり冬感動プロジェクト実行委員会

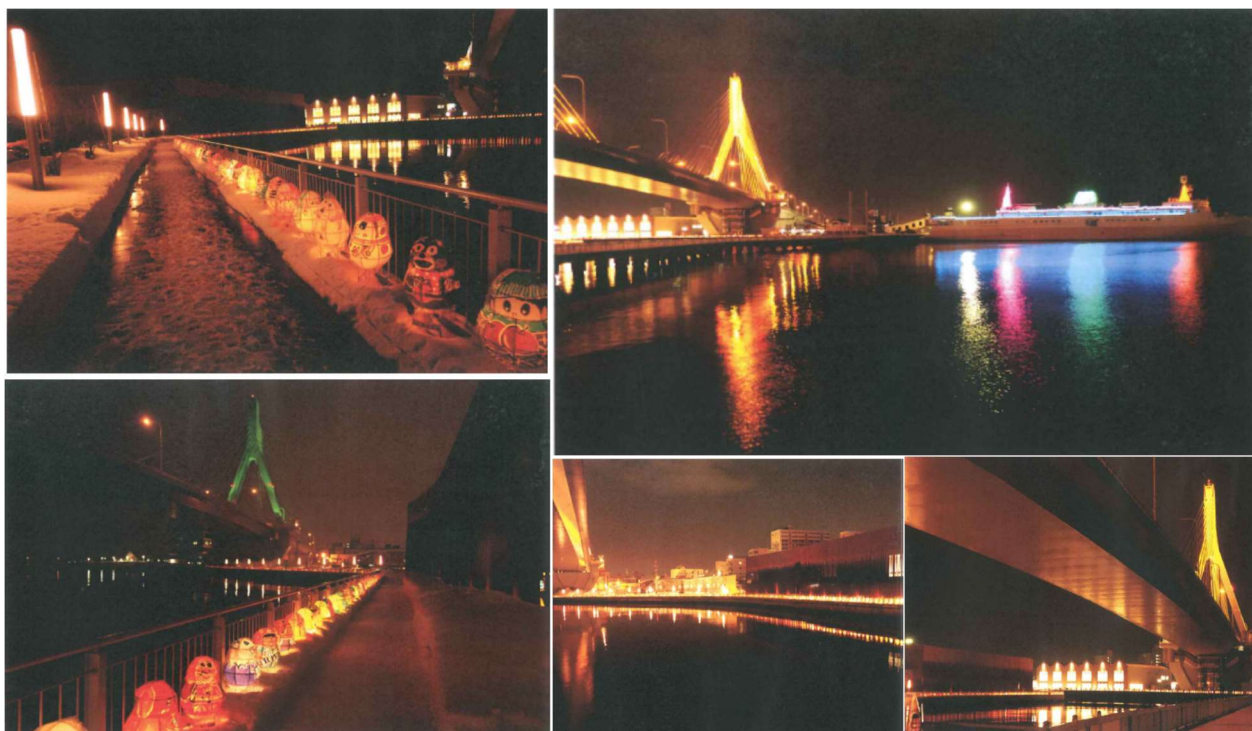
推薦者 武田セツ子

＜受賞理由＞

ねぶたの家「ワ・ラッセ」、「A-FACTORY」、青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」、青森県観光物産館アスパムが立ち並ぶ「青森ベイエリア」は、青森市の歴史や文化が集約したまち歩きスポットです。

撮影時期は冬で、イルミネーションによる色彩の変化が周辺とマッチした幻想的な美しさがあります。

写真左は「あおもり灯りと紙のページェント」という冬季限定のイルミネーションイベントであり、「青森ねぶた祭」で培われた技法で作られた和紙のオブジェです。真っ白な雪景色の中に紙と光が創り出すコントラストは、冬の景観づくりとして非常に興味深いものであり、人の手によって造られたあたたかみのあるまちなみであるとして、本賞を授与します。



【まちなみ部門】

「都市計画道路 3・4・5 号上白銀町新寺町線整備事業」

(弘前市)

受賞者 弘前市

<受賞理由>

本地区は古くからの門前町で、お城周りの景観形成重点地区の区域にあり「都市計画道路 3・4・5 号上白銀町新寺町線整備事業」によって整備されたものです。

門前町の風情を残すために地元のまちづくり委員会、アドバイザー、市の3者が協働してまちづくりに取り組んでおり、協調型のまちづくりとして評価できます。取り組みとともに周辺との連続性、調和が図られた美しい景観としてまちなみを評価し、本賞を授与します。



【まちなみ部門】 特別賞

「菜の花畑」 (横浜町)

受賞者 横浜町

<受賞理由>

横浜町の菜の花畑はこれまでに、第1回ふるさとあおもり景観賞で活動を評価され、まちづくり活動部門で景観賞を受賞していますが、今回は黄色い絨毯が創り出す不思議なパッチワークが評価され、まちなみ部門として特別賞を授与します。人の手によって創り出された美しい菜の花畑の奥には、同様に人の手によって設置された風車が並び、興味深いまちなみとなっています。



【まちなみ部門】 特別賞

「夜越山公園の桜並木」 (平内町)

受賞者 平内町

<受賞理由>

平内町夜越山公園は毎年4月下旬になると約500本の桜が咲き、桜のトンネルができあがります。桜並木と周りの自然がマッチしており、春の暖かい日差しにふさわしい景観であるといえるでしょう。今後もこの景観が地域に親しまれ、維持されていくことを期待して特別賞を授与します。



【まちなみ部門】 特別賞

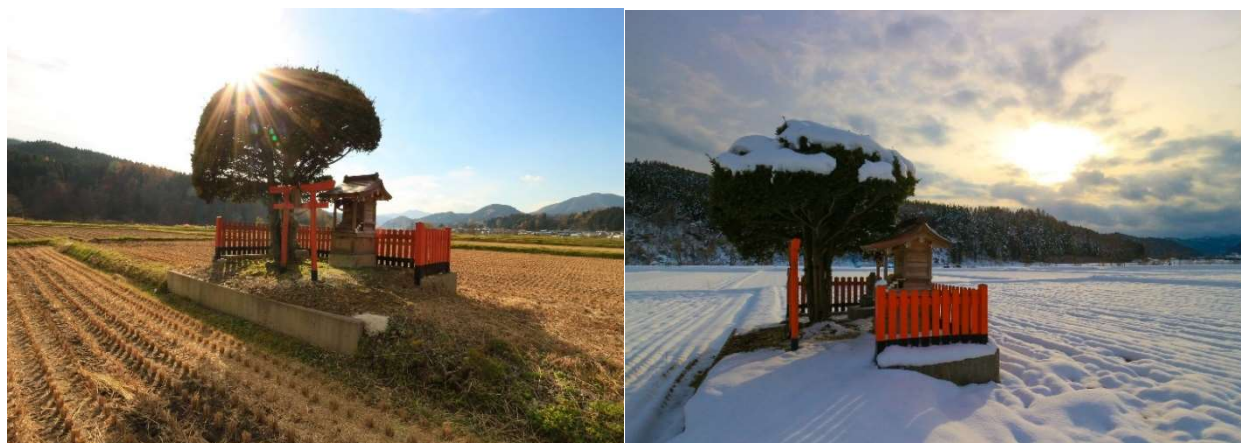
「田んぼの中のほこら」 (田子町)

受賞者 上村英典

<受賞理由>

黄金色の田んぼの中にほこらというシンボリックな場所であり、ほこらの保存状態が非常に良く、町の人々が大切に管理しているという想いが伝わってきます。写真は稲刈りの時期のものと冬のものがありますが、どちらの時期もそれぞれ風情があり、貴重な景観であると評価します。

これからも適切な管理を続け、美しい景観として残って欲しいという想いも込め、特別賞を授与します。



【土木施設部門】

「東日流館橋（大沼公園）」（五所川原市）

受賞者 五所川原市
設計者 (株)日本水エコンサルタント

<受賞理由>

五所川原市市浦地区にある大沼公園には、屋根付きの木橋としては国内で最も長い「東日流館橋（つがるやかたばし）」があり、橋の間にある櫓の階段を上ると周辺が一望できます。

木橋の風貌、色合いは周辺の景観との調和が図られており、全体的に雰囲気が高く、落ち着いた自然の美しさを感じられます。

また、大沼を一周できる遊歩道には途中遊具も備えており、観光施設としても評価でき、景観を楽しむことができる土木施設であると評し、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「タプロピアンプラザ」 (田子町)

受賞者 田子町
設計者 (株)環境システム研究所

＜受賞理由＞

平成6年に完成した田子町の公共施設「タプロピアンプラザ」は、20年経った現在でも色あせることなく地域に溶け込んでいるように感じられます。斬新なデザインであるけれども、近くを流れる川の雰囲気との調和がとれており、周辺景観を損なうことなく自然に溶け込んでいるところが評価できます。玄関口にある、田子町の特産物であるにんにく部分もユニークで、人々に長く親しまれるような工夫がなされている点も大変興味深いです。

田子町の特性を活かしつつ周りとの調和を図った公共施設であるとして、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「新町キューブ」

(青森市)

受賞者 新町キューブ管理組合

設計者 (株)アール・アイ・エー・(株)三菱地所設計共同体

＜受賞理由＞

衰退化する新町通りにシンプルですっきりとした印象の近代的な建物を建て、町の活性化に貢献しているように感じられます。さらに、新町通りと善知鳥神社をつなぐイベントスペースを作ったというのは非常に画期的なことであり、環境に配慮した素晴らしい建物であると評価できます。

今後、新町通りの新たなシンボルとしてより多くの市民に認知されて親しまれる建物となることを期待して、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「青森県建築士会まちづくり委員会」 （県内各地）

受賞者 一般社団法人青森県建築士会まちづくり委員会

＜受賞理由＞

受賞団体、青森県建築士会まちづくり委員会の「青森県内の小学生を対象にした建築デザインコンテスト」は、平成24年建築士会連合会より第7回まちづくり賞を受賞した「小学生を対象にしたデザインコンテスト」の青森県全県版事業であり、各地の小学生を対象にした、未来の「青森の住宅」について考える建築景観教育の地域貢献活動です。

建築士と学校教育との連携が図られており、かたちに見えるまちづくりではなく教育的まちづくりで草の根のまちづくり・人づくりが進められています。未来の青森県の景観をつくるためだけでなく、今後の全国の建築士の活動モデルとなることを期待し本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「川代ものづくり学校」 （新郷村）

受賞者 川代地区振興会

<受賞理由>

新郷村川代地区では、平成23年3月に小学校が閉校となった後、地域のコミュニティを維持するため、従来のPTA組織に代わる川代地区振興会を立ち上げ、川代ものづくり学校(旧川代小学校)を拠点として、学校や裏手を流れる三川目川の草刈り・清掃作業を行っています。また、地域交流として、スポーツ交流会や夏祭り、釣り大会、チェーンソーアートを開催したり、地域の伝統芸能である大黒舞の継承活動も実施しており、様々な体験学習が行われています。

学校の跡地を活用し、町の活性化へとつなげられるよう地域住民を巻き込んだ取組みを評価し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】 特別賞

「相米集落」 (田子町)

受賞者 宮野自治会

<受賞理由>

田子町相米集落では、毎年稲荷神社のしめ縄を作って交換するという伝統行事があります。現在このように毎年しめ縄を作って交換する集落は珍しく、後継者不足が懸念される中、集落の人々が協力してしめ縄を作る活動が続いているというのは素晴らしいことであり、景観としてもこのような活動は非常に大切です。このような伝統が残る継続的な活動を評し、特別賞を授与します。



【地域づくり活動部門】 特別賞

「蟹田川の清掃活動」 (外ヶ浜町)

受賞者 外ヶ浜町

〈受賞理由〉

4月下旬、蟹田川にしろお漁の梁がかけられ、旬の味覚を心待ちにした観光客を迎えるために蟹田川河川敷を町民みんなで清掃活動を行っています。

ごみ拾いは景観を保全する第一歩であり、地域住民が協力して行っているところも評価できます。また、この清掃活動は平成11年から継続して行われているということで、長年の努力が今後も続いていくことを期待し特別賞を授与します。



第8回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成27年6月1日～平成28年1月31日

「まちなみ部門」	応募23件	受賞1件
「土木施設部門」	応募14件	受賞1件
「公共建築物部門」	応募11件	受賞0件
「民間建築物部門」	応募4件	受賞3件
「屋外広告物部門」	応募5件	受賞1件
「地域づくり部門」	応募10件	受賞2件

【まちなみ部門】

「西目屋村田代地区、村市地区」 (西目屋村)

受賞者 西目屋村

<受賞理由>

西目屋村では平成27年度から「西目屋村美しい村づくり条例」を施行し、指定地区内の屋根のブナ色への塗り替え費用を補助しています。

田代地区、村市地区は指定を受けたモデル地区であり、屋根の色を統一することによって村の財産である農村の原風景を活かした美しい村づくりを進めています。

今後この取組が西目屋村の活性化へとつながっていくことを期待し、本賞を授与します。



田代地区



村市地区

【土木施設部門】

「鶴の舞橋」 (鶴田町)

受賞者 鶴田町

＜受賞理由＞

岩木山の山影を湖面に美しく映す津軽富士見湖にかけられた、全長300mを越える日本一長い木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」は、季節の移り変わりと共に四季折々の美しい姿を見せ、多くの観光客たちの目を楽しませています。この橋はすべて青森県産のヒバでできており、独特の温かみを醸し出し、色合いも周辺の景観とうまく調和している点が高く評価できます。

また、鶴の舞橋周辺では地域団体が企画した、キャンドルの灯りにより幻想的な空間を創り出す「星空のキャンドルナイト」といったイベントなども行われており、地域が一体となって維持・活用ができていることを評し、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「カフェパンメルシ」

(八戸市)

受賞者 角時絵 及び 中村亜紀

推薦者 瀬川征吉

＜受賞理由＞

築60年の和民家を洋風に改築して店舗として活用しており、改築前の面影を残しながらも落ち着いた空間を創りあげています。

また、日本家屋らしさの趣と洋風のデザインを見事に調和させながら、建て替えてもおかしくない和民家をできるだけ再利用している点を評し、本賞を授与します。

改装前



改装後



【民間建築物部門】

「みちのく銀行むつ支店」 (むつ市)

受賞者 みちのく銀行むつ支店

設計者 富田秀雄建築アトリエ

<受賞理由>

むつ市の新市街地の交差点角地に建つ「みちのく銀行むつ支店」は、郊外型の大型店舗やロードサイドショップが建並ぶ景観の中でシンプルにデザインされており、目に止まる建物となっています。

「厳冬の中、暗い夜に温かさを届ける行燈のイメージを白い外壁に縦スリット開口として表現した」という設計者の意図が見受けられ、とかく閉鎖的なデザインになりがちな銀行として非常に刷新的な建物であることを評し、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「古川家住宅」 (黒石市)

受賞者 古川利有
設計者 (株)ヤマノアーキデザイン

<受賞理由>

古川家は、「こみせ」と呼ばれる藩政時代から今に残るアーケード状の通路や、江戸時代中期から明治・大正・昭和初期に建てられた伝統的な建物が数多く立ち並ぶ、「黒石市中町伝統的建造物群保存地区」に位置しています。

伝建群の落ち着いた雰囲気構成する重要な建物の一つとして、新築にも関わらず、周りの景観となじむようデザインに尽力されていることに敬意を表し、本賞を授与します。



【屋外広告物部門】

「つきだて歯科（ガラスロードサイン&壁面内照看板）」

（八戸市）

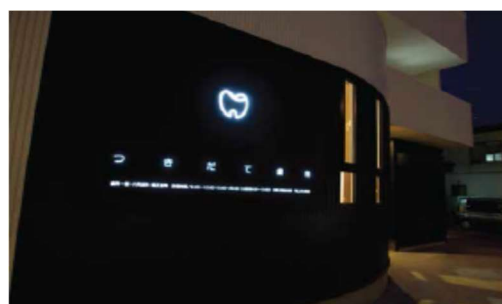
受賞者 つきだて歯科
施工者 (株)エーアンドエム

<受賞理由>

八戸市の交通量の多い国道45号線沿いに立地している歯科医院の看板です。歯のマークを表現していますが、りんごの形にも見えてユニークで工夫されたデザインとなっています。

医院周辺の人のいない殺風景な風景に対して、親しみやすく心を和ませるデザインのセンスは高く評価できるものであり、本賞を授与します。

看板の存在感を派手さや大きさではなく、建築物の外観や窓の照明等を巻き込んで表現しており、夜間のライトアップも効果的です。



【地域づくり活動部門】

「岩木山桜会議」 （弘前市）

受賞者 岩木山桜会議

＜受賞理由＞

津軽地方のシンボリック的存在である岩木山のふもとの景観と環境を保つために、「岩木山桜会議」では、桜並木の枯木処理や植樹、ゴミ収集などのボランティア活動を4月～11月にかけて実施しています。

環境整備から景観づくりまで幅広く活動し、広く県内外からの会員により8年間活動が継続されており、しっかりと組織化されている点も評価できます。

また、活動内容等をまとめた会報も発行するなど情報発信にも力を入れており、岩木山の美しい景観を維持するための活動に敬意を表し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「市民集団まちぐみ」 (八戸市)

受賞者 市民集団まちぐみ

＜受賞理由＞

「市民集団まちぐみ」は、アーティストの山本耕一郎氏を中心とする市民集団で、八戸中心市街地・中心商店街を活性化する活動を行っています。

商店街に位置する様々な店舗の外装やショーウィンドウに遊び心を仕掛けるなど、これまでになかった新しいタイプのまちづくり活動であることが高く評価できます。

また、若い人たちが中心となって活動していることから、新しい発想によって生まれるまちづくりの効果が八戸市だけでなく各地に広がっていくことを期待し、本賞を授与します。



第9回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成28年6月1日～平成29年1月31日

「まちなみ部門」	応募	1件	受賞0件
「土木施設部門」	応募	6件	受賞1件
「公共建築物部門」	応募	11件	受賞2件
「民間建築物部門」	応募	11件	受賞3件
「屋外広告物部門」	応募	5件	受賞2件
「地域づくり部門」	応募	14件	受賞6件
			(審査員特別賞 1件)

【土木施設部門】

「城ヶ倉大橋」 (青森市)

受賞者 青森県東青地域県民局地域整備部

推薦者 笠原均

＜受賞理由＞

平成7年10月27日に開通した国道394号「城ヶ倉大橋」は、耐候性鋼材を使用したことにより、経年するにしたがって自然の雄大さに調和し、形状の美しさも合わせてすばらしい景観を持つ橋となりました。年月の経過とともに景観に溶け込んでいく土木施設を象徴する構造物として高く評価し、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「歴史みらいパーク」 （五戸町）

受賞者 五戸町

<受賞理由>

平成10年にオープンした「歴史みらいパーク」は、五戸町図書館の現代建築と五戸代官所復元施設の歴史的文化財がとてもうまく調和し、地域住民の憩いの場となる公園の景観を作り出しています。

この景観資源を維持し、ライトアップするなどの活用に敬意を表し、本賞を授与します。



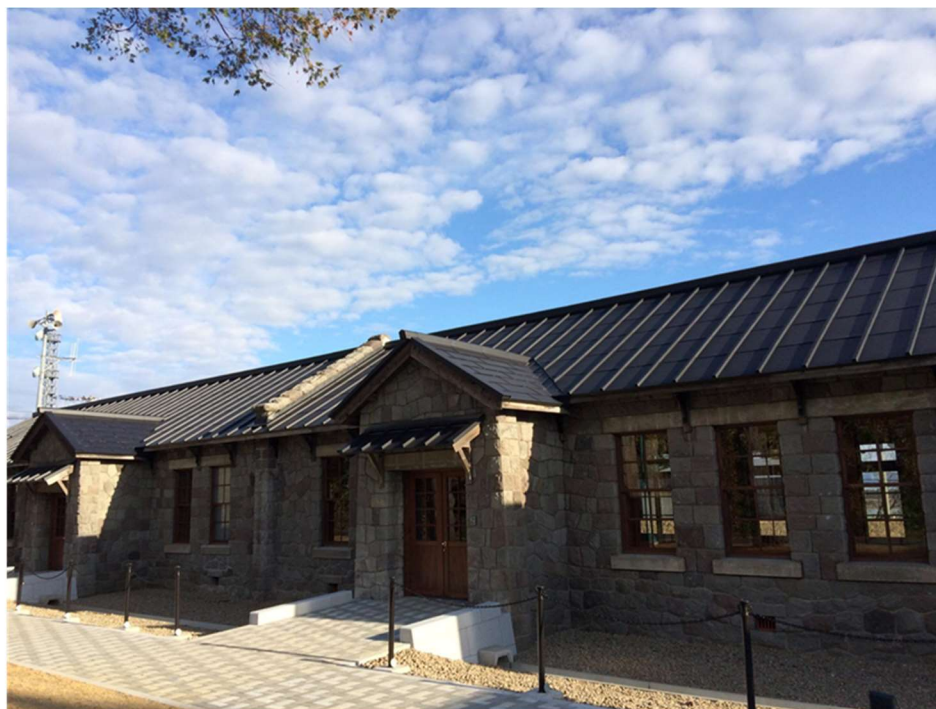
【公共建築物部門】

「北の防人大湊 弐番館」 (むつ市)

受賞者 所有者 むつ市
設計者 (株)石川設計

＜受賞理由＞

大正4年に建設された旧海軍大湊要港部の士官官舎は「北の防人大湊 弐番館」として、ほぼ当時の姿に忠実に改修され、歴史的建造物としての景観を取り戻しました。また、周辺の建造物や公衆トイレ、案内サインなども、重要文化財である旧大湊水源地水道施設からの連続性を図る整備を実施し、地域の景観資源を生かしたまちづくりが行われており、これらを高く評価し、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「Come on UC (アーバンコテージ)」 (むつ市)

受賞者 まちづくり倶楽部

<受賞理由>

空き家問題の解決策を、目に見える形で示すために行われた「Come on UC (アーバンコテージ)」のリノベーションは、大湊地区に多い石垣が使用されるなど周辺の景観にも配慮され高く評価できるものです。また、空き家は景観悪化に結びつく課題でもあり、地域の財産や知力をフル活用して行われたこの事例が、今後、各地域の参考事例になることを期待し本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「金子ファーム（旧盛田牧場）」

（七戸町）

受賞者 (有)金子ファーム

推薦者 田邊克彦

＜受賞理由＞

「金子ファーム（旧盛田牧場）」は、明治45年に建てられた一号厩舎を中心に、7棟の厩舎や馬頭観音堂が所有者によって大切に守られており、本県を代表する近代洋風牧場の歴史的景観を、今もなお見ることができる貴重なものです。また、平成22年にオープンしたジェラート店等も、これらの周辺景観を配慮しており、歴史的景観と現代建築が、豊かに融合した美しい景観を作り出しています。これに敬意を表し、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「よしの保育園」 (むつ市)

受賞者 所有者 社会福祉法人桜木会
設計者 (株)手塚建築研究所 手塚貴晴+手塚由比

＜受賞理由＞

純木造の斜めに傾斜する「よしの保育園」は 地域の中に斬新な建築物が目立って存在するのではなく、周辺環境に馴染み、地域に溶け込むように景観が配慮されています。

子供たちが自然豊かな地域の景観を感じながら育っていくことのできる、新しい景観を生み出したことを高く評価し、本賞を授与します。



【屋外広告物部門】

「協同組合青森総合卸センター」 (青森市)

受賞者 所有者 協同組合青森総合卸センター
設計者 (有)尾崎克典デザイン事務所

＜受賞理由＞

周辺環境との調和を図ることを目的に整備された問屋町の屋外広告物は、問屋町にゲート景観を創出し、夜間の視認性、青森の厳しい気候への耐久性などが考慮され、問屋町全体のイメージアップに繋がり、市民に対して明るく開放的な印象を与えています。そのデザイン性の高さを評価するとともに、整備に対する尽力に敬意を表し、本賞を授与します。



【屋外広告物部門】

「理右衛門小路（テナント看板）」

（黒石市）

受賞者 高橋幸江

推薦者 黒石市

＜受賞理由＞

黒石市中町伝統的建造物群保存地区からの連続性を意識して整備された「理右衛門小路（テナント看板）」は、こみせの景観を阻害しないように統一され、こみせを活かした景観の創出と店舗の趣を作り出しています。

今後もこの景観が継続的に維持され、更なる整備が進められることを期待し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「鶴田町の鶴をモチーフにしたまちづくり」 (鶴田町)

受賞者 鶴田町 (行政・住民を代表して)

＜受賞理由＞

鶴田町の「鶴をモチーフにしたまちづくり」は51箇所にも及ぶ「鶴」にちなんだ看板や銅像、モニュメントを、行政のほか住民らが自発的に、こだわった結果、鶴田町ならではの景観を作り出しました。

地域が一体となって町全体に様々な鶴を楽しむことができる景観を作り出したまちづくりに敬意を表し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「八戸市立種差小学校」

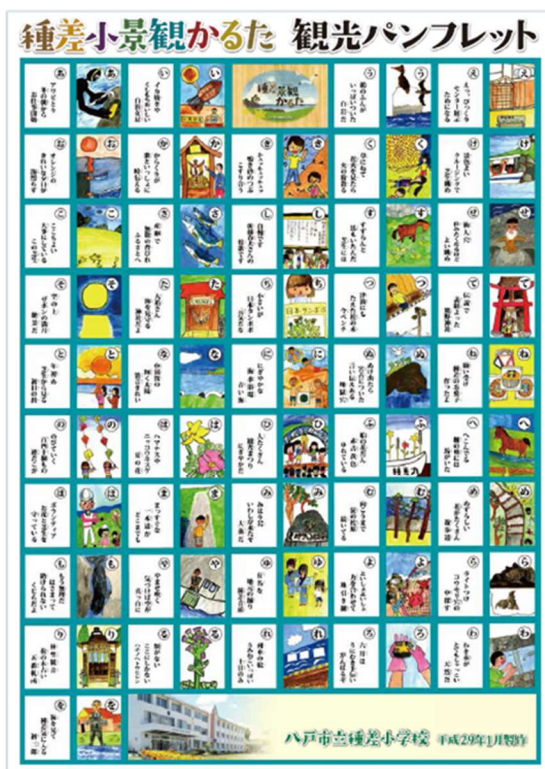
(八戸市)

受賞者 八戸市立種差小学校

＜受賞理由＞

種差海岸に隣接する種差小学校は、種差海岸のごみ拾いや外来種駆除などを継続的に行うことで、素晴らしい景観を守り続けており、その活動は地域住民の景観に対する意識をも向上させるものです。

また、県が行っている景観学習教室を最大限に生かした、種差景観カルタ観光パンフレットは、今後、観光客に継続的に発信されていくものであり、景観学習教室を生かした地域づくりに大きく貢献するものとして、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「元町弥生会」 （鶴田町）

受賞者 元町弥生会
推薦者 鶴田町

＜受賞理由＞

江戸時代から続く「弥生画」は、五穀豊穡を願い、毎年、大晦日から1月中旬頃まで神社の鳥居に奉納され、参拝者を魅了しています。翌年の干支や七福神などから絵の題材を決め、下絵から製作、種子を餅で作ったのりで板に張り付けていく古くからの技法は、「元町弥生会」によって継承され続けており、本県の貴重な文化的景観の継承に寄与するものとして、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「NPO法人 かなぎ元気倶楽部」 (五所川原市)

受賞者 NPO法人 かなぎ元気倶楽部

＜受賞理由＞

「NPOかなぎ元気倶楽部」は、地域全体を太宰ミュージアムとして金木地域の歴史的、文化的景観を年間を通して活用し、それらがまちづくりのほか、観光振興にも結び付いています。

発足から10年以上に渡り、地域の中心となって活動し続ける「NPOかなぎ元気倶楽部」の更なる発展を期待し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「ものづくりでまちづくり実行委員会」 （むつ市）

受賞者 ものづくりでまちづくり実行委員会

<受賞理由>

青森県立むつ高等技術専門学校が中心となって行っている「ものづくりでまちづくり実行委員会」の活動は、地域に貢献する職業訓練として、大湊の湧水をリメイクするなどし、地域の景観資源を教育の一環としてうまく活用しています。

この活動が学校だけでなく地域全体を巻き込んで展開されていることに敬意を表すとともに、今後の景観資源を活用した地域づくりに期待し本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「協同組合 青森総合卸センター」 （青森市）

受賞者 協同組合 青森総合卸センター

＜受賞理由＞

企業自らが、街並や景観整備プランニングを作成し、景観の視点からまちづくり、物流拠点のイメージアップ向上を図る「協同組合 青森総合卸センター」の取組は、問屋町全体の景観意識の向上に役立っているほか、地域の活性化と住民とのパートナーシップに繋がっており、本県の景観の推進に寄与するものとして、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】特別賞

「青森県立弘前高等学校 写真部」 (弘前市)

受賞者 青森県立弘前高等学校 写真部

<受賞理由>

「青森県立弘前高等学校写真部」は、日常の何気ない風景を景観という視点から被写体とし、多数の応募をしてくれました。なかでも、三上ちひろさんが応募した「弘前市運動公園の不思議な木」「土淵川吉野町緑地ベンチ」は、独特な視点で見る景観の姿に審査委員一同関心させられました。今後、青森県立弘前高等学校写真部のように、多くの高校生が景観としての視点を持ち、意識向上につながることを期待して、本賞を授与します。



第10回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成29年6月1日～平成30年1月31日

「まちなみ部門」	応募	6件	受賞0件
「土木施設部門」	応募	2件	受賞0件
「公共建築物部門」	応募	10件	受賞2件
「民間建築物部門」	応募	3件	受賞2件
「屋外広告物部門」	応募	1件	受賞0件
「地域づくり部門」	応募	4件	受賞1件

【公共建築物部門】

「八戸市立西白山台小学校」 (八戸市)

受賞者 八戸市立西白山台小学校
設計者 (株)日本設計、シーラカンズK&H(株)
(株)佐藤淳構造設計事務所

<受賞理由>

八戸ニュータウンに位置し、遠景の山の緑豊かな自然や周りの家並みに寄り添い、周囲の住宅のスケールに合わせて構成された小屋根が連続する外観が、地域の新たな景観を作り出しています。

地域への愛着を育む学校づくりに敬意を表し、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「はるか夢球場」 （弘前市）

受賞者 弘前市

＜受賞理由＞

昭和54年より市民球場として愛されてきた「はるか夢球場」は大規模改修を行い、平成29年6月にリニューアルオープンしました。メインスタンドや照明、シートなどは「弘前らしさ」を全面的に押し出したデザインとなっているほか、「ボールパーク」として市民に愛され、弘前市の新たなシンボルとなることを目指しています。これらを高く評価し、整備に対する尽力に敬意を表し本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「株式会社日本の窓 十和田工場」 (十和田市)

受賞者 (株)日本の窓
推薦者 十和田市

<受賞理由>

株式会社日本の窓は、株式会社東京組の子会社で、木造サッシの製造・販売を手掛け、その工場にも木材がふんだんに使用されています。その木を基調とした建物全体が、周囲の田園風景と調和しており、美しい景観を提供してくれています。これに敬意を表し、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「旧佐藤酒造」 （黒石市）

受賞者 特定非営利活動法人元酒蔵の歴史的建造物群を
保存・活用する会（略称：初駒保存会）

＜受賞理由＞

旧佐藤酒造は、明治27年に創業し、黒石市のまちなみの特徴である「こみせ」を有し、平成20年の廃業まで多くの人に愛された酒蔵です。元町では「こみせ」がほとんど残っておらず、希少価値を増しており、現所有者である初駒保存会が佐藤酒造の保存・活用に取り出し、改修・再利用を行っています。今後もこの景観が継続的に維持され、更なる整備が進められることを期待し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「特定非営利活動法人元酒蔵の歴史的建造物群を 保存・活用する会による元酒蔵「旧佐藤酒造」の 保存・活用に関する活動」 (黒石市)

受賞者 特定非営利活動法人元酒蔵の歴史的建造物群を
保存・活用する会 (略称：初駒保存会)

<受賞理由>

酒蔵「佐藤酒造 (愛称：初駒)」の保存・活用に向けて取り組んでいる NPO 法人であり、団体自ら物件を買い取り、クラウドファンディングの活用やボランティアの方たちの力により、再活用に向けて努力しています。板塀の再塗装、屋根の修復のほか、カフェ「はつこま」の開業など、地域に根差した活動も積極的に行っています。このような景観資源を活用した地域づくり活動を賞し、本賞を授与します。



第 1 1 回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

平成30年6月1日～平成31年1月31日

「まちなみ部門」	応募	6件	受賞1件
「土木施設部門」	応募	3件	受賞1件
「公共建築物部門」	応募	17件	受賞1件
「民間建築物部門」	応募	3件	受賞0件
「屋外広告物部門」	応募	3件	受賞0件
「地域づくり部門」	応募	6件	受賞1件

【まちなみ部門】

「法光寺千本松並木」 （南部町）

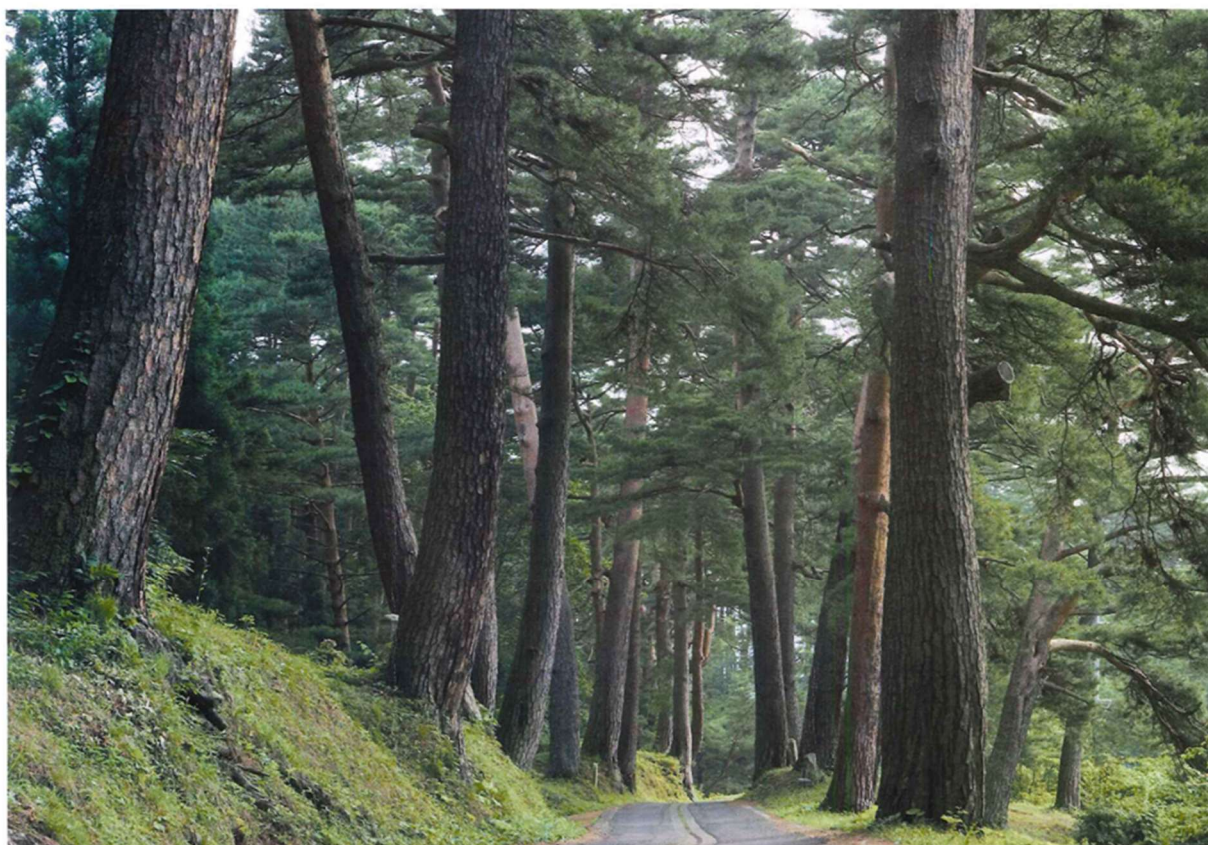
受賞者 白華山法光寺
推薦者 南部町

＜受賞理由＞

法光寺千本松並木は、日本の名松百選の1つに数えられています。千本松並木は、県天然記念物にも指定されており、法光寺と併せてみどころの一つでもあります。

手入れの行き届いた松並木が周囲の風景と調和しており、美しい景観を提供してくれています。

これに敬意を表し、本賞を授与します。



【土木施設部門】

「アップルモール」 （板柳町）

受賞者 板柳町

＜受賞理由＞

国土交通省所管の都市公園事業により整備され、町の中心部にやすらぎを感じながら優雅に散歩できる遊歩道です。

ふるさとセンターから大蔵町・町道岡本玉川環状線に至る2.1kmからなっています。

今後もこの景観が継続的に維持され、良好な景観が守られることを期待し、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「マチニワ」 (八戸市)

受賞者 八戸市
設計者 (株) I N A 新建築研究所東日本支社
推薦者 北山隆一、瀬川征吉

<受賞理由>

八戸市が整備した「マチニワ」は総ガラス張りのユニークな景観で、冬期以外は1階は解放されます。お年寄りの休憩や学生の勉強、市民の読書、有志によるミニライブ等様々な活用されています。

良好な景観形成と更なるまちのにぎわいづくりに期待して、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「浅瀬石川クリーンの会による 市内河川環境・景観の保全に関する活動」(黒石市)

受賞者 浅瀬石川クリーンの会

＜受賞理由＞

平成4年に市内の河川環境を保全すべく、有志(市民)らによって設立されました。6名の顧問と22名の役員で構成され、クリーン活動においては、年間3,000人以上が参加しています。

各々が刈払機や清掃用具を持参し、市内を流れる浅瀬石川、十川、高館川、中野川の清掃活動を積極的に行い、河川周辺の景観・環境を保全しています。

特に、6月に行われる浅瀬石川クリーン作戦には多くの人が集まり、浅瀬石川に架かる橋から岩木山への眺望を守り、良好な景観の創出に大きく貢献しています。

20年以上、地域景観の保全活動の中心となって活動し続ける浅瀬石川クリーンの会の発展を願い、本賞を授与します。



第12回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

令和元年6月1日～令和2年1月31日

「まちなみ部門」	応募	3件	受賞0件
「土木施設部門」	応募	5件	受賞0件
「公共建築物部門」	応募	11件	受賞1件
			(審査員特別賞1件)
「民間建築物部門」	応募	0件	受賞0件
「屋外広告物部門」	応募	3件	受賞1件
「地域づくり部門」	応募	4件	受賞2件

【公共建築物部門】

「鶴田町歴史文化伝承館」 （鶴田町）

受賞者 鶴田町

推薦者 鶴田町

<受賞理由>

鶴田町歴史文化伝承館は、平成16年に廃校となった鶴田町立水元小学校を活用した展示施設です。町の歴史や文化に関する展示物を見ることができます。

昭和11年に築造されたヒバ造りの木造校舎が今も残っているのは全国的にも珍しく町文化財の指定を受けています。

古いものを大切に保存活用し、良好な景観形成とまちづくり行っている姿勢を評価し、本賞を授与します



【公共建築物部門】（特別賞）

「マテ小屋」 （六ヶ所村）

受賞者 個人所有のため非公表

推薦者 松橋 洋司

<受賞理由>

マテ漁のために利用されていた小屋。
全国的にもマテ小屋が残っていることは珍しく、山や湖の景観と併せてぜひ後世に残していただきたい景観として評価し、本賞を授与します。



【屋外広告物部門】

「弘前市街観光誘導サイン」(弘前市)

受賞者 弘前市
設計者 株式会社 エーアイサイン
推薦者 石澤 安弥人

<受賞理由>

弘前駅から弘前市庁舎までの主要動線にある誘導サインをリニューアルしたものです。青森の伝統工芸である「こぎん」をモチーフに、観光に訪れた人に文化を感じてもらえ、また地域を象徴する伝統を継承するという思いが込められています。

以前のデザインはグレーベースで建物や街頭に紛れ込んでおりましたが、新デザインは伝統色である藍色をベースとすることで風情ある街に調和し、サインとしての誘目性も高めています。また目的地へきちんとたどりつけるようにサインの情報整理を行っています。

弘前市のまちなみと景観に合ったサインであることを評価し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「弘前工業高校お城隊」(弘前公園)

受賞者 青森県立弘前工業高等学校

推薦者 弘前市

<受賞理由>

平成21年に弘前工業高校の創立100周年を記念し、全校生徒と全職員で構成された清掃ボランティアを行う「お城隊」を結成し、弘前公園周辺の美化活動に取り組んでいます。

地域のシンボルである弘前公園を通学路とする生徒も多く、公園自体を母校と慕い、全校を挙げて清掃活動に取り組み、今年度で結成10年を迎えました。お城隊となった卒業生は約3千人にのぼります。高校生の美化活動は弘前市を象徴する優れた景観資源を支えています。

弘前公園を清掃する弘前工業高等学校の活動を評価し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「下北ジオダイニング」(下北各地)

受賞者 一般社団法人 しもきたTABIあしすと

推薦者 むつ市

＜受賞理由＞

自然・景観(ジオ)の独自性、また、ジオにより恵まれた食資源・食文化の独自性(豊かさ)を、シンボリックに伝えるため、特異なジオ環境下で、下北の食材をふんだんに使ったダイニングイベントを「下北ジオダイニング」と銘打って、開催しています。

景観(ジオ)と食を組み合わせる発想は全国にも珍しく、また、地域づくり活動の新しい試みとして今後に期待し、本賞を授与します。



第13回ふるさとあおもり景観賞

募集期間：

令和2年6月1日～令和3年1月31日

「まちなみ部門」	応募	3件	受賞1件
「土木施設部門」	応募	5件	受賞0件
「公共建築物部門」	応募	11件	受賞2件
「民間建築物部門」	応募	0件	受賞1件
「屋外広告物部門」	応募	3件	受賞0件
「地域づくり部門」	応募	4件	受賞2件

(審査員特別賞2件)

【まちなみ部門】

「田中家住宅と周辺の景観」（南部町）

受賞者 田中 裕

推薦者 瀬川 征吉

＜受賞理由＞

南部町福田間ノ原周辺は地元週刊誌に取り上げられているように、国の有形登録文化財・田中家住宅を中心に白壁をいかした民家や米蔵が点在し、一定のまちなみを形成しています。

よりよいまちなみや雰囲気を作り出していることを評価し、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「十和田市役所本館」（十和田市）

受賞者 十和田市

推薦者 株式会社山下設計東北支社 谷口 太郎

＜受賞理由＞

十和田市役所は、美しい桜並木が連続し日本の道100選にも選定された「官庁街通り」に面しています。官庁街通りの魅力を敷地内に引き込んでおり、まち全体として一体感のあるつくりになっています。

また、通りと建物間に日常的な憩いの場やイベント時の観客席として活用される芝生広場や段上広場等を整備しており、住民や訪れる人にとって居心地の良い空間を創出していることから、本賞を授与します。



【公共建築物部門】

「青森空港旅客ターミナルビルリニューアル増改修」

(青森市)

受賞者 青森空港ビル株式会社

推薦者 株式会社日本空港コンサルタンツ 佐藤浩司、上原正悟

＜受賞理由＞

弘前などにみられるレンガと瓦をイメージさせる色合いとなっており、深く飛び出た庇と格子のカーテンウォールは、黒石に残る「こみせ」の町並みを感じさせるものとなっています。

また、ヒバやこぎんなど青森をテーマに居心地の良い空間を創出しており、青森の「門」としてふさわしい景観を形成していることから、本賞を授与します。



【民間建築物部門】

「こみせの宿 ホテル逢春」(黒石市)

受賞者 逢春株式会社
設計者 一級建築士事務所 野呂設計室
推薦者 黒石市

<受賞理由>

「黒石市中町伝統的建造物群保存地区」である中町こみせ通りに隣接する横町において、十数年前に閉店した薬局跡地に建てられました。

外壁は中町こみせ通りに現存する町家と同様、しっくり風の色合いとし、屋根は保存地区内にある利右衛門小路やかぐじ広場のような黒系統の落ち着いた色合いとなっており、周囲との一体的な景観の創出を図っていることから、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会」（弘前市）

受賞者 弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会

推薦者 弘前市

<受賞理由>

昭和54年に設立し、40年以上伝統的建造物群保存地区の町並み保存に取り組んでいます。

地区住民の高齢化が進展する中、町並みを保存継承するため、関心のある市民等に広く呼びかけ、「黒板塀・黒門等柿渋塗実技体験会」、「サワラの生垣手入れ実技大会」、「仲町地区ガイド養成講座」等を実施し、同地区住民の意識の高揚を高めるとともに、広く市民を取り込むことで地区・世代を超えた町並み保存の継承に繋がっています。

積極的に街の歴史等の勉強会や観光客を受け入れるための講習会など幅広い活動を評価し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】

「乳井町おこし協力会史跡里山環境美化活動」(弘前市)

受賞者 乳井町おこし協力会

＜受賞理由＞

2012年に乳井町おこし協力会設立し、これまで、乳井茶臼館展望台の整備、周辺の草刈、歩道の整備、自然ため池の整備等に取り組んでいます。

また、2018年には乳井神社33年式年祭を経て、「歴史の径散歩コース」に案内看板設置やマップ作成、Facebookで「乳井町おこし協力会」の開始等、広報活動にも力を入れており、乳井町の美しい景観を守っていく活動を評価し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】（特別賞）

「コミュニティスペース「ぬぐだまり」」（東通村）

受賞者 ひがしどおり高校生カフェ「Re Youth」

＜受賞理由＞

令和元年、村の活性化のため地元の高校生、大学生、地域の人達が協力して空き家を改装し高校生カフェ「Re Youth」をプレオープンしました。

若者と高齢者と地域を結びつける活動になっており、将来性があることや今後の活動を期待し、本賞を授与します。



【地域づくり活動部門】（特別賞）

「北里農援隊による農園ボランティア」（十和田市）

受賞者 北里農園隊

<受賞理由>

「北里農園隊」は北里大学の農業ボランティアサークルで、青森県、十和田市で農業の手伝いをし、農業の面から地域のパワーアップに貢献しています。

若者のエネルギーで地域や農業に活力を与えていることに加え、継続的な取り組みにより農村景観づくりに寄与していることから、本賞を授与します。

